

『社会学研究』82号(2007年10月5日刊)

特集 「シンボリック相互行為論の刷新」

- ・「巻頭言 フィールドに学ぶ方向へ」(徳川直人)
- ・「シンボリック相互行為論から認知社会学へ」(片桐雅隆)
- ・「私たちはSIで何が出来るか 言葉の歩みをふりかえりながら」(内田健)
- ・「シンボリック相互行為論の生かし方をめぐって N・K・デンジンの批判的評価から」(伊藤勇)
- ・「G・H・ミード社会理論における個人、相互行為、社会 シンボリック相互行為論との対話をめざして」(山尾貴則)
- ・「A・ストラウスの社会的世界論における「混交」の論理 相互行為と社会的世界との関係から」(山口健一)

論説

- ・「1920年代後半におけるG・H・ミード社会的自己論の課題 「自己実現」とナショナリズム批判との関わりから」(寺田征也)

書評

- ・徳川直人著『G・H・ミードの社会理論 再帰的な市民実践に向けて』(評者 宝月誠)
- ・細谷昂・吉野英岐・佐藤利明・劉文静・小林一穂・孫世芳・穆興増・劉増玉著『再訪・沸騰する中国農村』(評者 若林敬子)
- ・木村邦博著『日常生活のクリティカル・シンキング 社会学的アプローチ』(評者 山田富秋)